

B-59 男女児の頭部形態と帽子のサイズについて

三重大教育 ○伊藤 令子
新潟大教育 清水 薫
お茶大家政 柳沢 澄子

1. 1950年から1961年にわたり計測した東京都在住の男女児（4～11歳）784人の頭部計測値を用い、帽子のサイズ設定を目的として2・3の検討を試みた。

2. 研究項目は、頭長・頭幅・頭長幅示数並びに頭囲の4項目で、性別、年齢別に集計整理を行なった。

3. 主な成果は次のようである。

a 成長の経過は、男女共に頭長は漸次増加するが、頭幅には大きな変化がみられないので、頭長幅示数は加齢に伴って漸次減少し、長頭化の傾向を辿る。また、頭長・頭幅では男子が常に優位である。

頭囲は、4～8歳までは男子優位の有意差を示すが、9歳を過ぎると性差はみられなくなる。

b 頭長と頭幅、頭長幅示数と頭囲との相関は、いずれも無相関に近い。

c 以上の結果を用い、帽子のサイズを設定する場合の一例を示す。